特集
〈事例〉

認知度とイメージアップ目指し 清掃とティッシュ配布を実施

公益社団法人
広島市シルバー人材センター
（広島県）

広島市ＳＣは、この２年で会員が大幅に増えている。そこで、令和２年度の「シルバーの日」は、さらなる認知度の向上を図り入会増につなげるため、ボランティア清掃やティッシュなどの配布を事業所ごとに実施した。当日は雨が降ったため活動を中止した事業所もあったが、合計69人の会員が参加。新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で、悪天候の中でも積極的な活動を展開した。

二年連続で百人以上の会員増を達成

中国地方最大の都市である広島市は、人類史上で初めて核兵器の惨禍を受けたまちであり、国際平和文化都市としても知られている。

広島市ＳＣは昭和五十六年六月に、広島県で二番目に発足したセンター。市の面積が約九〇七㎢と広いため、本部、北支部、安芸出張所、佐伯出張所（湯来分室含む）の体制で、事務局の運営を行っている。

会員数は、平成十六年度に約五千七百人を数えたが、以降は減少傾向にあった。会員拡大の対策として、平成二十九年四月、会員と学識経験者などで構成する「シルバー活性化検討会議」を設置。地域に出向いて開催する「出張入会説明会」をはじめ、さまざまな取り組みを展開した。その結果、平成三十年度は十二年ぶりに対前年度を上回って百二十五人増の三千七百五十八人、令和元年度は前年度より百四十四人増えて三千九百二人となった。

「この二年は、本当に頑張りました。しかし、まだ広島市ではシルバー人材センターの事業自体が浸透していません。引き続き、認知度の向上とイメージアップのために、ＰＲの継続は重要だと考えています」と保田卓己常務理事兼事務局長は語る。

十月第三土曜日に事業所ごとに一斉活動

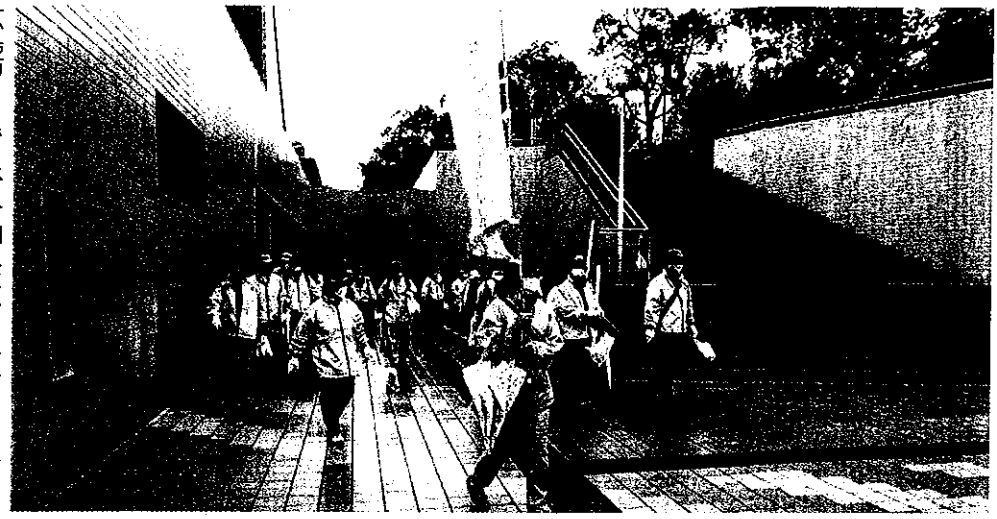
広島市ＳＣでは、毎年十月第三土曜日の「シルバーの日」に合わせて、普及啓発と地域貢献を目的として、事業所ごとに一斉に活動を行っている。

令和二年度は、コロナ禍により実施が危ぶまれた。

しかし、屋外の活動で新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の感染防止対策を講じること、また七月末にプロ野球のイベントなどの開催制限が緩和されたことを受けて、実施を決定した。十月十七日の「シルバーの日」当日は、全参加者が集合時に検温し、マス

クと手袋を着用。開会・閉会のあいさつ時や作業の説明などで集合する際も、密にならないよう気を配った。

なお、「シルバーの日」の活動に参加すると、広島市が行う「高齢者いきいき活動ポイント」が付与される。これは、広島市在住の六十五歳以上の高齢者が、自らの健康づくりや地域支援のために行う活動（いきいき活動）を奨励するもの。活動実績に基づいて付与されるポイント数に応じ、奨励金が支給される仕組みである。



広島市SCでは、令和二年十月十七日に「シルバーの日」の活動を実施。本部では、そろいのジャンパーを着用した会員たちがボランティア清掃（写真中央）や、入会説明会案内チラシ入りのポケットティッシュ千個を配布した（写真下）

天候で苦戦するも千個のティッシュを配布

広島市SCの本部では、事務所に近い中央公園や広島城周辺などで毎年十月に開催される「ひろしまフードフェスティバル」に合わせて、平成二十八年度からボランティア清掃と普及啓発活動を実施してきた。

山崎昌弘理事長は「このフェスティバルは市内外から大勢が集まる広島の秋の恒例グルメイベントで、令和元年は約六十万人が来場しました。多くの人に当センターをPRするいい機会なので、シルバーの日の翌週のイベント当日に、本部事務所から中央公園周辺の歩道を清掃していました。その後、市内中心部のデパート前の路上で、入会説明会案内チラシ入りのポケットティッシュを配っていました」と説明する。

令和二年度は、新型コロナの影響で、ひろしまフードフェスティバルは中止になった。このため、本部では、「シルバーの日」に、ボランティア清掃とティッシュ配布の実施を決定し、九月号の会報で案内記事を掲載して参加会員を募った。

十月十七日は、九時三十分に四十五人（会員二十七人、職員十四人、広島県SC連合会職員四人）が本部事務所に集合。山崎理事長が「ボランティア清掃活動を行って、地域に愛されるセンターを目指したい」とあいさつした後、職員がボランティア清掃の実施方法と、歩道から出ないこと、危険なものには近付かないといった注意事項を説明した。

参加会員は「広島市シルバー人材センター」のネーム入りジャンパー、マスク、軍手を着用して、本部事務所を出発。のぼりを掲げた職員の誘導のもと、そろいのジャンパーを着用した会員が隊列を組んで中央公園周辺の歩道を火ばさみでごみを拾うことで、地域貢献とセンター活動の両方をアピールした。

開始時は雨が降っており、参加者は傘を差しながら清掃活動を行った。そのうち雨脚が弱くなり、二十分もすると雨は上がった。

毎年参加しているという会員は、「ここはいつも通る道なので、きれいになると気持ちがいい」と話してくれた。

「シルバーの日」の活動。北支部は安佐動物公園で剪定を（写真上）、佐伯出張所はJR五日市駅周辺の清掃（写真下）やティッシュ配布を行った

また、入会して十六年目の会員は、「コロナで外出できなかったので、こういう機会があるとありがたいです。ほかの会員にも会えるので、参加できてよかった」と笑顔を見せた。

十時ごろ、市内中心部のデパート前に到着すると、会員が拾ったペットボトルや缶、紙くずなどのごみと、火ばさみを職員が回収。密にならないように参加者の集合を促し、普及啓発活動の実施場所などの説明を行った。

参加者は軍手からビニール手袋に取り換えて、入会説明会案内チラシ入りのポケットティッシュの配布を開始した。天候の影響もあり人通りは多くなかったが、会員は横断歩道や地下通路出口、バス停、デパート入り口など、人が集まるところや出入りの多い場所を選んで配布活動を続けた。こうした場所で普及啓発活動を行うことで、幅広い層への宣伝効果が期待できるという。

用意した千個のティッシュを全て配り終え、十時五十分に活動は終了した。

支部・出張所の活動

本部以外でも、令和二年十月十七日に「シルバーの日」の活動を行った。

内容は以下の通り。

〈北支部〉

北支部は例年、市内北部にある安佐動物公園で、園内の樹木の剪定、シバザクラの中の草取り、老朽化した遊具のペンキ塗り替えをボランティアで行っている。この活動を行うことで施設に貢献するとともに、来園者への同センターの活動や事業の宣伝効果を見込んでいる。

今年度は雨天のため、ペンキの塗り替えは行わず、九～十一時に二十八人（会員二十四人、職員四人）が園内の樹木の剪定を行った。

〈佐伯出張所〉

佐伯出張所では前年と同様に、JR五日市駅の南口広場と北口広場、自由通路に分かれて、ボランティア清掃とポケットティッシュの配布を行った。会員はセンターのネーム入りベストを着用して、十～十二時に活動を実施。参加人数は二十二人（会員十八人、職員三人、広島県SC連合会職員一人）であった。

〈安芸出張所〉

安芸出張所は雨天のため、令和二年度の活動を中止した。

平成三十年度までは小・中学校の剪定・除草を手伝っていたが、校内ではPR活動ができないこと、佐伯出張所の活動が効果的であることが分かったため、令和元年度はJR海田市駅（かいたいち）周辺でのボランティア清掃・普及啓発活動に切り替えた。

JR海田市駅は広島市に隣接する海田町内に位置するが、広島市安芸区の住民も多く利用することから、海田町SCと共同で「シルバーの日」の活動を行っている。

令和二年度は、JR海田市駅（以下、駅）付近のひまわり大橋に会員が集合し、PR班（駅周辺やスーパーで、海田町SCとの共同PRチラシなどを配布）、清掃班（駅周辺のごみ拾い、剪定、花の植え替え）に分かれて作業を行う予定であった。

課題と今後の取り組み

本部で活動を行った山﨑理事長は「毎年恒例のイベントがなかったため、ポケットティッシュの配布には前年以上に時間がかかってしまいました。今回は、効率よくPRすることに難しさを感じました」と語る。

小林良充事務局次長も「雨天で人出が少なかったのですが、毎年、活動を続けることに意味がありますと話す。

保田事務局長は「健康年齢が上がってくれば、就業のチャンスがあること、楽しく活動していることを知っていただければ、おのずと入会者は増えると思います。今後もシルバーの日をはじめ、さまざまな活動を展開して、会員獲得とともに、就業開拓にもしっかり取り組んでいきたいと思います」と力強く語った。

（井本旬子）

事業運営状況

（平成27年度～令和元年度）

年度	会員数 男	会員数 女	会員数 計	粗入会率	就業実人員（延人員）	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	人	人	人	%	人（人日）	%	件	千円	%
平成27	2,387	1,424	3,811	1.1	2,742（341,083）	71.9	13,191	1,566,083	23.2/76.8
28	2,350	1,324	3,674	1.0	2,683（338,757）	73.0	13,858	1,554,750	23.4/76.6
29	2,356	1,277	3,633	1.0	2,613（336,429）	71.9	13,465	1,556,399	24.6/75.4
30	2,425	1,333	3,758	1.0	2,780（325,577）	74.0	13,114	1,542,857	24.9/75.1
令和元	2,504	1,398	3,902	1.1	2,835（324,405）	72.7	13,157	1,584,013	23.8/76.2

※受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象